

周年親子放牧展開における課題

1) 周年親子放牧の実践

山梨県北杜市 日野春牧場 (繁殖農家)

荻澤 靖

「周年親子放牧の実践について」



山梨県北杜市長坂町日野 日野春牧場 荳澤 靖

1 地域概況

ここ北杜市は山梨県の甲府盆地北西部に位置し、県の北西端として西から北にかけては長野県の伊那市・富士見町・南牧村・川上村に、東から南にかけては、甲府市・甲斐市・韮崎市・南アルプス市に接する。日本有数の美しい山岳景観を有していることや、首都圏から車で2時間、中京圏から2時間半程度の距離にあり、アクセスもよく、年間を通じて多くの観光客を受け入れている。市では観光はもとより農業を含む企業誘致にも力を注いでいる。また町内は農家集団が先駆的な農業生産体系を持って遊休農地、耕作放棄地、作業受託等の管理を行っているところで、長坂ファームグループやブルーベリー生産集団などグループの力が発揮される土地柄となっている。



牧場のある日野地区

自然豊かな北杜が誇る3つの日本一
水と緑と太陽の恵みを象徴する3つの日本一は、大いなる自然からの贈り物です。

北杜市プロフィール

総面積 602.48平方キロメートル
年平均気温 12.1℃
日照時間 2052.472955時間
降水量 1476.293mm
総人口 45,111人 (027年国勢調査)

北杜市役所 HP から <https://www.city.hokuto.yamanashi.jp>

北杜市
HOKUTO CITY

〒408-0101 山梨県北杜市長坂町大宮町1-1
TEL:0551-42-1111 FAX:0551-42-1122 法人番号:300020140091
観光情報/お問い合わせ 午前9時30分～午後5時15分 (土日、12月29日～1月3日は除く)

Copyright © Hokuto City. All Rights Reserved.

2 日野春牧場の概要

和牛繁殖の兼業農業者:労働力 2.5名 本人(団体職員)、妻(公務員:保育士) 母親
(昨年11月から夕方の管理対応のみ)

○経営概況

区 分		数 量	備 考	
家 畜	繁殖雌牛	12頭	平成16年開牧時に導入を先頭に隔年1歳刻みで保留	
	育成牛	4頭	飼いやすい母牛を中心に保留	
	出荷仕向け	3頭		
	肥育仕向け	1頭	試験的に飼養(来年の5月出荷予定)	
	計	20頭		
施 設	本場	30a	簡易畜舎、高張力鋼線、	
	清水	80a	簡易退避舎、ポリワイヤー(春から秋のみ使用)	
	横牧(畜舎)	120a	フリーストール牛舎、ポリワイヤー	
	(県道側)	90a	簡易退避舎、ポリワイヤー(春から秋のみ使用)	
	計	320a		
機 器 他	トラクター	1台	クボタ社製 中古 19PS(フロントローダー付) H6	
	ライディングモア	1台	OREC社製 刈り幅98cm H10	
	スキッドステアローダー	1台	Bobcat 590 グラブ、フォーク、スノーブローア H29	
	軽トラック	1台	ダイハツ社製 H30	
	ブロードキャスター	1台	ホッパー200l 中古 H25	
	草刈機	3台	共立社製 H20-H30	
	配水機器	1式	ポンプ 25mm2台、ローリータンク 500l×5 300l×4	
	電牧機	6台	B160 1台 B40 3台 B11 1台 B10 2台(全ソーラー付)	
	発電機	2台	工進 1,600w H29 スズキ 2,400w H21	
	その他		LNG ボンベ AI 器具、飼料攪拌機、カッター、管理機、	
労 働 投 下	区分	平日	土曜	休日
	朝	4:30- 1hr 2名	7:30- 1hr 2名	6:30- 1hr 2名
	昼	-	9:30- 3hr 2名-	-
	夕	17:00 1hr 1名(母)	17:00 1hr 2名	17:00 0.5hr 2名
		ほぼ毎日	月2回 1名対応	ほぼ毎回



春の放牧風景



掃除刈用



朝食風景

○養牛を始めたキッカケ

・平成17年に自宅の未利用地 30a の管理対応として養牛を開始



開牧前の放棄地



未利用敷地



入牧

……当時繁殖黒毛和牛を用いた放牧が盛んに推奨されていた。

○協力体制

長坂放牧利用研究会(H16-)は放牧を利用した遊休農地管理と畜産振興に寄与する目的で酪農家2戸、耕種農家1戸の3戸の集団で作られた。現在、酪農家3戸、肉用牛繁殖農家1戸、オブザーバー5名(JA、NOSAI関係者など)となっている。



登録業務



牧柵設置練習



協議会研修会

○参考とした牧場

北杜市高根町清里の八重森牧場(酪農家)

・冬季野外分娩対応など「養牛の基礎」を師事



食育などボランティアへも積極的
学生の校外学習に対応する八重森さん

- ・零下 20 度に達する放牧地でも野外分娩を実践する。
- ・動物が持つ生命の強健性をいかに引き出せるか。
- ・先人の知恵を活かした技術。
- ・牛とともに歩む姿勢。
- ・人としても尊敬する方。

3 日野春牧場経営の概況

実施年月	面積	繁殖	内容
平成 17 年(2005 年 5 月)			綿羊2頭が導入された。(馴致用)
平成 17 年(2005 年 8 月)			日野春牧場計画策定(強い農業作り交付計画含む)
平成 17 年(2005 年 8 月)			清水園場放牧地造成(協議会員2戸協力)
平成 18 年(2006 年 5 月)	30a		基幹牧場骨格(フェンシング、簡易畜舎)が完成した。
<u>平成 18 年(2006 年 5 月)</u>	<u>30a</u>	<u>2 頭</u>	<u>2 頭の繁殖黒毛和牛が導入された。(名号 ひめ、はな)</u>
平成 18 年(2006 年 6 月)	30a	2 頭	本牧場初めての放牧が始まった
平成 18 年(2006 年 8 月)	30a	2 頭	北杜市農業経営改善計画認定を受ける
平成 18 年(2006 年 11 月)	30a	3 頭	本牧場初めての雌子牛が生産された。(名号 まい)
平成 19 年(2006 年 6 月)	110a	4 頭	清水園場の放牧が始まった
平成 20 年(2008 年 11 月)	320a	4 頭	酪農経営休止牧場の利用開始
平成 20 年(2008 年 12 月)	320a	4 頭	本牧場初めての雄子牛が出荷された。(名号 仁)
省 略			
平成 28 年(2016 年 12 月)	320a	13 頭	11 月原因不明で当牧場初成牛の死亡牛
平成 29 年(2017 年 9 月)	320a	13 頭	AI 試験協力開始、クラスター事業に参加(Bobcat 導入)
平成 30 年(2018 年 6 月)	320a	14 頭	一年限りの預託を実施(5 頭)、当场初子牛死亡事故
平成 31 年(2019 年 10 月)	320a	13 頭	黒毛和牛全 21 頭、山羊 11 頭、鶏 10 羽、現在に至る。

4 現在の放牧体系に至った経緯

○羊から繁殖牛2頭から増頭

自分達の管理能力と利用地面積、全てのキャパシティを考慮し、少しずつ増頭した。

○導入した基礎雌牛の能力が高い

子牛の哺育、保育能力、放牧適正、人への順応性が適度にあった。

○低投資型畜産

借り物(土地)の多い経営は、即時撤収可能な施設機器が重要。

○動物本来の強健性は放牧にから、そのポテンシャルの高さを実感

あらゆる環境適応の能力に感動した。

○地域の協力と理解、地域資産とのマッチングが容易

地域の環境保全に力点を置く。地域が好きだから

○家族コンセンサス

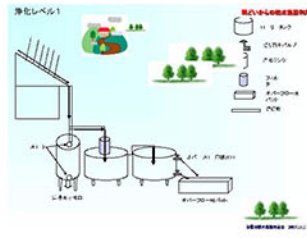
日頃の家族協力や動物と生きる楽しさを理解してくれた。



○立地の重要性



湧水利用



天水利用



牛の移動

○地域の理解があった。耕作放棄地借受け、休業中の酪農家の施設利用など
……………以上を総合的に勘案し周年の親子放牧が適していると判断した。

5 これからの取り組み

○自給率の向上と”キロメートル ゼロ”の実現

牧場の特性を生かした販売(畜産 GAP、ウエルフェア、その他認証制度…)



牧草



稲 WCS



青刈りトウモロコシ

6 周年親子放牧とは……

○これはスタンダードではなく、自然と実践し、体現してこの言葉の意味と成功の秘訣が……

周年親子放牧の推進目的と成功条件

放牧は、牧草を直接牛に採食させ糞尿は草地に還元される資源循環型農業。屋外の放牧地で家畜を1年中飼養する周年放牧は、牛舎内飼養と比べて給餌や排せつ物処理等の作業労働が著しく削減され飼養規模の拡大と収益向上、そして国土の有効活用の促進が期待される。他方、放牧は牛と飼い主の距離を遠ざけ、家畜の生産性の低下をもたらすリスクも孕んでいる。

○生産性を低下させず穏やかな良い牛づくりを実現するためには

- ①分散しないひとまとまりの放牧用地の確保
- ②草地基盤の整備
- ③季節安定性の高い放牧草地の造成
- ④冬季粗飼料確保
- ⑤毎日の集畜等を通じた放牧牛と飼い主との信頼関係の構築
- ⑥信頼関係構築のために集畜と馴致を行う簡易捕獲施設や別飼施設など設置
- ⑦放牧環境下での衛生管理、放牧に伴うリスクの認識と適切な対処等が必要

日本種子畜産種子協会 30年3月発行「肉用牛の周年親子放牧のすすめ」から



環境に配慮した畜産



扱い易い牛



牧場初の死亡牛

7 課題と提案

○動物本来の生のポテンシャルを最大に引き出せるか

(例) 動物の e-ラーニング? 母性に勝るものはなし

○応用すれば、どこでも使える技術とは

シンプルな方法(飼養) = 低投資型 = 災害に強い = 就農し易い方法

○化石燃料に頼らない養牛の可能性

○**スマート農業者**(賢い、カッコいい農業者)を目指して

私の周りにおける最近の経営者の未来に向けた考え方 (八重森さん含め他4名)

○ポジティブな**終焉**の話

どのタイミングで終わらせるのか。求められる限り続ける(新たな試みにトライ)

○新規就農者への助言(日野春牧場のパターン)

▶開業までのプロセスと、開業から現在に至るまでのプロセス管理→

▷低コストの考え方→

▶兼業の重要性→

▷繁殖管理の重要性→

▶ 経営のバックアップ体制→

▷地域及び家族間のコミュニケーション→

▶ 経営主としてのモチベーション(計画と展開)→

▷普段の業務の中で、ユニーク発想と非現実的な発想を常に意識→



畜産研究部門 令1-3 資料

放牧活用型畜産に関する情報交換会 2019

編集・発行 農研機構（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構）

畜産研究部門 畜産飼料作研究拠点

山本嘉人・井出保行・中尾誠司・中神弘詞

〒329-2793 栃木県那須塩原市千本松 768

TEL：0287-36-0111（代） FAX：0287-36-6629

発行日 令和元年10月16日

印刷 近代工房

〒324-0036 栃木県大田原市下石上 1603